

オープンキャンパス

附属・系属校合同説明会を初開催
小中学生と保護者らが多数参加

オープンキャンパスの8月1日、多摩キャンパスで中央大学附属・系属校の初の合同説明会が行われた。

この日は、中央大学高等学校、中央大学杉並高等学校、中央大学附属中学校・高等学校、中央大学横浜山手中学校・高等学校の説明を1日で聞けるとあって、附属・系属校への進学を考えている小中学生とその保護者が多数訪れ、関心の高さをうかがわせた。

初めに総合ガイダンスで大学の歴史・学部学科・教育の特徴・OBの活躍など中央大学の魅力が紹介されたあと中学・高校別ガイダンスが各教室で行われた。

中央大学高校は、中大理工学部がある後楽園キャンパス内にある。昼間定時制という独特のスタイルをとることが最大の特徴で、基礎学力の養成を重視し、部活や年間行事も充実している。

杉並高校の説明会場はほぼ満席。説明では「数学が得意な人が文系へ」というタイトルで、得意科目が何であれ、早急に進路を決めてほかの選択肢をつぶしてしまうのではなく、「時間をかけて進路を決定する」ことの大切さを説明。高大一貫教育のメリットを活かした「考える教育」を実践していることを紹介し、具体例として中大に入学内定した生徒を

対象に、進学予定学部の教授陣による講義（ブリッジ講義）を実施していることを挙げた。3年次に卒業論文を課すのもその特徴のひとつだ。

附属高校の説明では、「節度を持った自由」を掲げて、自主・自治・自律の精神の尊重を学校教育の柱としていることを強調。高校有数の蔵書数を誇る図書館など抜群の教育環境と、高大一貫教育に加え、今年春に附属中学が開校したことで中央大学初の中高大一貫教育により主体的・創造的学習意欲が高められることをアピールした。

横浜山手中学・高校は、今年春から新たに中央大学系属校となった

（10月1日からは附属校）。「人づくり」を教育の根本に据え、将来の人生を見据えた教育、学力を支える根源的な力として「心の体力」を育む教育をアピールした。生徒同士で支えあう「学びの共同体」を目指すこともそのひとつ。現在は中高とも女子校だが、2012年度より中学校が、2014年度より高校が共学募集を予定している。

それぞれ5分間の学校紹介ビデオを含め約30分の比較的短い時間での説明であったが、学校ごとの特色がよく表れ、学校別個別相談にはさらに詳しく知りたい保護者らの順番待ちの列ができていた。参加した小中学生やその保護者からは、「中学フェアでは短時間しか話を聞くことができなかったので充実していたよかったです」、「同じ附属・系属でも学校の特徴の違いが明確にわかった」などの感想が聞かれた。

（学生記者 中野由優季 法学部1年）